

# 文化財調査報告書



平成14年度  
前橋市教育委員会  
第33集

## 序

近年、人々の生活に安らぎと潤いをもたらすものとして、文化に対する関心が高まっています。文化は、生活に安らぎと潤いをもたらすばかりではなく、豊かな人間性を育むとともに、人と人との心のつながりを強固にし、人が人間らしく生きていくために大切なものです。私たちは、本来的により豊かでより良い生活を求めていますが、その実現には文化の息づく社会を志向する必要があります。いま、私たち一人一人の考え方や生き方の見直しが問われています。

文化が息づく社会を築き上げるには、将来の文化の担い手となる子どもたちへの働きかけが不可欠です。家庭や社会では、七夕やお月見などの季節の行事や地域のお祭りなどの伝統行事に参加できるようにし、伝統文化をもう一度見直すこととも重要です。学校教育では、総合的な学習の時間を利用して伝統文化に対する関心を高める工夫なども期待されています。まずは身近なところから取り組んでいくことが、最も必要なことだと考えます。

本市教育委員会でも、昨年より大室公園内にある文化財を活用しながら、歴史や文化を学ぶ場として体験学習を実施しています。子どもたちのみずみずしい感性を育て、歴史や文化に関する好奇心を育む取り組みとして、内容の充実を図りながら定着させていきたいと考えています。子どもも大人も文化遺産に親しみ、学べる機会を設けながら、保存と活用を進め、地域文化の振興に寄与できる文化財保護行政を推進していく所存でありますので、市民の皆様方のご理解ご協力をお願ひいたします。

本書は、埋蔵文化財発掘調査の結果を含めた文化財保護の事業概要をまとめたものです。この報告書が文化財保護への理解を深める一助を担うことができれば幸いです。

最後に、本市の文化財保護行政を進めるにあたり、ご指導ご協力いただいた関係各位、並びに諸機関に心から御礼申し上げます。

平成15年12月

前橋市教育委員会

教育長 桜井 直紀

# 目 次

## 序

I	文化財調査委員による調査	1
1	日輪寺の絵馬等の調査	1
2	上野国群馬那波両郡用水植野天狗岩堰水下水行筋略図	3
3	福德寺の梵鐘	4
4	樹木調査	5
II	文化財調査	6
1	刀剣の調査（第4年次）	6
III	文化財保護事業	11
1	保護管理運営事業	11
2	整備事業	13
3	普及事業	14
4	埋蔵文化財発掘調査事業	17
5	遺跡台帳整備事業	25
6	大室公園史跡整備事業	26

あとがき

# I 文化財調査委員による調査

## 1 日輪寺の絵馬等の調査

日輪寺は前橋市日輪寺町 412 に所在する真言宗の寺院で、朝天山祈福院と号し、不動明王をまつっている。寺には、県指定重要文化財「十一面觀世音像」、市指定重要文化財「日輪寺寛永の絵馬」がある。平成 14 年 10 月 30 日、前橋市文化財調査委員により、本寺の絵馬等の悉皆調査を実施した。調査の概要は以下の通りである。

日輪寺 絵馬等一覧

番号	画題(内容)	年代	寸法(縦×横cm)	奉納者	備考
1	鱗馬図	寛永期の作と推定	62×91		大絵馬に属する。
2	馬図	寛永19年 (1642)	27.3×49.3	上田左太夫	奉納馬形一疋 成就兜 寛永十九年壬午年五月吉日 上田左太夫 ・上部欠損
3	亀図 (葵壇を背にした亀)	元禄7年	82×98	五十嵐氏久慶 妻	元禄七甲戌歳九月吉日 御掛奉 諸口成口 ・極彩色のもので水神を表現している。 ・上枠欠損。
4	鱗馬図	元禄11年	34×45		奉懸 御宝前所願成就兜 元禄十一庚寅年六月吉日 ・上部欠損
5	馬図	元禄期の作と推定	36.5×58.5	宮下氏	奉納 御宝前 宮下氏 ・保存の程度も良好。
6	人物図(三十六歌仙に似た図柄)	元禄期の作と推定	34×34		・左右の横棒欠損。
7	富士山図	宝永元年	34.5×49		宝永元年甲申年四月吉日
8	不明		70×92		大絵馬に属す ・絵はほとんど消滅。 ・寛永から元禄期の作と思われる。
9	文字額(勝負・酒断ち)	天保11年	27.1×40.8		奉懸 式拾ヶ年之内 諸勝負酒 天保十一庚子年七月 領主 ・「断ち絵馬」で勝負事と酒を断つ願をかけたもの。 ・上枠一部が欠損。
10	曳馬図	嘉永4年	37×46	萩原吉兵衛	嘉永辛亥年孟秋日 萩原吉兵衛 ・馬5頭を並べて描いたもの。

					・枠の一部が欠損。
1 1	馬図	江戸末期のもの と推定	2 5 × 3 7	木村九右衛門	奉納 当所 木村九右衛門。 ・馬一匹が墨による略画風 に描かれている。
1 2	馬図		3 1 × 3 6	福本氏	奉納 当村 福本氏 ・馬七頭を並べて描いたも の。 ・江戸末期から明治期にか けて の民間信仰として掲げられ た代表的な形式。 ・同様な絵馬が 1 3 枚あ る。
1 3	奉納額	宝永期			阿弥陀三尊の種字が画かれ ある。 西国 奉納 坂東 百箇所口口 秩父 宝永口口年四月吉日 とあり、巡礼場所として 日輪寺の観音が札所になっ ていたことを示すものであ る。
1 4	奉納額 (句額)	寛保元年	5 8 × 8 9		※銘文・併句は表外に記 す。
1 5	奉納額 (句額)	文政 2 年	3 3 × 1 7 9 . 5		文政二菩薩單闇茶日催之 奉納 43 人 催主 9 人 乙来 作 乙麻呂 撰者
1 6	奉納額 (句額)	天保 14 年	3 4 × 2 4 0		天保十四癸卯正吉祥日 □□折句会 奉納 狂句大口口
1 7	絹本着色 不動明王立像 (軸装)	室町時代 (南北 朝)	1 6 3 × 4 9		大師御真筆不動明王 壱幅と繪書きあり。 裏面に次の修理銘がある。 天保十三寅年八月修復
1 8	涅槃図 (軸装)	江戸時代後期	1 7 3 × 1 3 4		
1 9	地獄曼陀羅 (軸装)	江戸時代後期	1 9 7 × 1 0 0		一軸に十界を描いたもの。
2 0	准胝觀音図 (軸装)	室町時代前期			

※14の奉納額（句額）の銘文

前	宝	御	掛	奉
惟時寛保元重光作爾穎極時	月八行教露 の部徳ぬ一 夜しを法け 者もわ口け 戸歌寿暗北枝の さ舞禮した春鳥 國しぬた春鳥 行て松の梅 もめの色花哉 春阿た増方音て 曲	願主如如歴如 引田村雪吟月擲害	會誠晦書 に二口無漏 乃月入世汗 月を世界に志と 能耕心へし能 給へし能耕心 へしふて書巡 か、ふて書巡 多、忽厚經懶 ち染然く一志寿 寿紙火志佚て ぐと氣可八愈に みの寿□□□實□ の寿□□□實□ 智、見意 □□	不受一塵不捨一法 萬國圓芥れハ方とれて開瀬に怒かて 人ありて開瀬に急かて 書写んことを思願乃遲滞に急かて 事芬にと無漏中を志と能耕心へし能耕心 を汗世界月を世界に志と能耕心へし能耕心 浅界月を世界に志と能耕心へし能耕心 志と能耕心へし能耕心へし能耕心 てな過ぎを行給へし能耕心へし能耕心 行給へし能耕心へし能耕心へし能耕心 へしふて書巡 か、ふて書巡 多、忽厚經懶 ち染然く一志寿 寿紙火志佚て ぐと氣可八愈に みの寿□□□實□ の寿□□□實□ 智、見意 □□
示興同所				
□道龍誉				
金沢				

2 上野国群馬那波両郡用水植野天狗岩堰水下水行筋略図

昌楽寺（元總社町 3640）所蔵の「上野国群馬那波両郡用水植野天狗岩堰水下水行筋略図」の調査を、平成14年10月7日に実施した。調査の概要は以下の通りである。

時代 江戸時代（天保9年）

法量 207×94cm

概要 天保9年(1838)に作成された絵図面である。この絵図面には、北は吉岡町漆原（瀬来）より、南は玉村町（川井村）を通じ烏川に注ぐ地点までが描き表されている。

水利慣行に基づき、村の様子と水利関係が分かるようにするために描かれたものである。領分ごとに色分けされた天狗岩堰に係わる村々、主要道である三国往来・例幣使街道・倉賀野道・高崎道、河川では利根川・烏川・井野川・染谷川等及び用水路が描かれている。

江戸末期の天狗岩堰に係わる村の様子と水利関係を示す貴重な資料である。



上野國群馬郡那波兩郡用水

植野天狗岩堰水下水行筋署圖

一 用水取入口ヨリ植野村大橋迄  
御普請所之内間數凡千八百五拾間余  
但百間七分程箇所ゝ荒増ヲ記ス

一 植野村大橋筋組間分水口ヨリ光嚴寺裏掛樋迄  
是行者百間門川通未水迄間數凡老万千間余  
後御普請所之内間數凡千七百間也

一 猪同向先右ト又村々年者水下分水井水行筋其外一紙繪圖面仕立度  
當利取ヨリ各々申之付去ル天保九年歲年惣代相談之  
二年右調見番衛澗分惣門川通上代一京之候様同目儀致度  
分惣門川通上代一京之候様同目儀致度  
リ代上通相村者植野村平右衛門門此度凡年番相談之并數衛門門  
當年番相談之并數衛門門此度凡年番相談之并數衛門門

飯与萩元大惣植惣  
嶋六原鶴友社野代  
傳村喜分亦村甚名小村男町平村  
兵村右村太次右  
六衛六衛郎郎  
門門

### 3 福徳寺の梵鐘

福徳寺（上新田町 1280）にある梵鐘の調査を、平成 14 年 10 月 7 日に実施した。調査の概要は以下の通りである。

時代 江戸時代（正徳 4 年）

法量 総高 1m18cm

口径 49.5cm (外径 63.5cm)

竜頭高 28.5cm

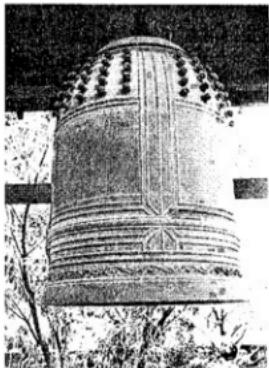
笠高 7.5cm

駒の爪 5.5cm

概要 正徳 4 年 (1714)、倉林傳左衛門則盈の作である。

乳の間には 5 段 5 列の乳がある。池の間には仏教思想や願主、鑄物師大工、紀年銘が刻まれている。下帯には唐草文が鋳出されている。龍頭は写実的で手の込んだ細工が施されており、駒の爪は大きい。

本梵鐘は第二次世界大戦の金属供出の時に、重要な美術認定申請書を提出して回収を免れたものである。



		(北東面)		(南東面)	
奉 納	千 四 月 吉 詳 甲 日 年 歲	大 同 名 長 兵 左 衛 門	當 倉 林 傳 左 衛 門	清 末 代 成 就 之 則 則 益	西 風 山 福 德 寺 上 新 田 村
寂生是諸 滅滅生行 爲滅滅無 樂已法常	正時 徳 四 詳 甲 日 午 歲	大 同 名 長 兵 左 衛 門	當 倉 林 傳 左 衛 門	西 風 山 福 就 之 則 則 益	願 施 主 城 助 清 口 衆 言 中
御 寶 前 諸 願 成 就 所					

#### 4 樹木調査

市内にある貴重な樹木・巨樹などについて基礎的なデータを整備するため、平成 14 年 10 月 17 日に調査を実施した。調査結果の概要は以下の通りである。

調査結果概要一覧

No.	名称(通称)	所在地	樹高	目通り周	樹齢	備考
1	今井町青木家のツツジⅠ ツツジⅡ	今井町 682	3.0 m 3.5 m	最大幹周 30 cm 最大幹周 41.5 cm		根元から 9 本の主幹に分かれ、北側に向かって曲がりくねって伸びているが、南側への枝張りは少ない。 根元からの主幹分岐は 8 本である。 形体はⅠと同じである。
2	下増田町のカヤ	下増田町 1592	28.0 m	3.62 m	約 400 年	市内には珍しく大きなカヤである。 樹勢は旺盛であるが、梢端には枯れたものが若干認められる。
3	来迎寺のコウヨウザン	下大島町 23	17.0 m	1.68 m		病害虫の被害は認められないが、樹冠に変色枝が見られる。
4	善勝寺のモミ	端気町 337	25.0 m	2.53 m	約 200 年	枯れ枝が若干多いが、特に病害虫の発生もなく、樹勢は旺盛で均整のとれた姿をしている。
5	上沖町岩田家のタブノキ	上沖町 112	18.5 m	2.75 m		樹冠はよく繁茂し樹勢は旺盛であるが、枯れ枝も若干混ざる。
6	勢多農林高校のカヤ	日吉町 2-25-1 勢多農林高校	13.50 m	2.46 m		他の木と共に丁寧に刈り込まれて三角錐を呈している。樹勢は旺盛で手入れもよいので病害虫の発生も認められない。
7	清野町間仁田家のイトヒバ	清野町 79	9.5 m	1.21 m		左右均等で枝は切りつめられているので、枝張りは小さい。葉も少なく枝が屈曲している有様がよく窺えるように手入れされている。庭木としての造形の面白さがある。

## II 文化財調査

### 1 刀剣の調査

石井昌重氏のご遺族から寄贈された刀剣については、平成11年度より始められ、本年度は第4年次にあたる。引き続き東京国立博物館法隆寺宝物室長 原田一敏氏によって進められた。調査結果は以下の通りである。

脇差 銘 奥大和守平朝臣元平  
寛政十二年中秋

法量 (単位 cm)

刃長	48.5	反り	1.1
元幅	3.05	先幅	2.2
元重	0.7	先重	0.5
鉄長	3.2		

形状 鑄造、庵棟、重ね厚く、中鋒、  
反りは浅い

鍛 板目表肌立ち、裏つんで地沸厚くつく。

刃文 のたれを主調として、大互の目を間を  
おいて焼く。匀深く沸よくつき、  
荒い沸交じる。

帽子 直ぐに大丸に返る。

茎 棍丸、先劍形、鰐目筋違、目釘孔1。

説明 元平は、安永から文化にかけて活躍した  
薩摩藩の抱え工。同じ藩工の伯耆守正幸  
とともに幕末期の薩摩鍛冶を代表する。  
沸の強い相州伝の作風を得意としている。  
本作は、沸が強く、やや荒めであること  
など元平の特徴が良く現れている。



## 脇差 銘 武藏大掾藤原是一

法量 (単位 cm)

刃長	55.2	反り	1.4
元幅	3.05	先幅	2.2
元重	0.6	先重	0.55
鋒長	3.2		

形状 鎌造、庵棟、中鋒、反りは浅い。

鍛 小板目肌よくつみ、棟寄り粧目交じり、  
淡く乱れ映り立つ。

刃文 丁子に小丁子、小互の目交じり、総じて  
焼巾広く、足先の壊った足入り、小沸つく。

帽子 焼深くほとんど一枚、先尖って返る。

影物 表裏とも棒槌、区上で丸留め。

茎 棟角、先浅い刃上栗尻、鰐目勝手下り、  
目釘孔1。

説明 武藏大掾是一は、本国は近江で、江戸に出て  
鍛刀した。是一の作風は、鎌倉時代中期に栄  
えた備前の福岡一文字派の華やかな丁子乱を  
倣ったものがほとんどである。本作もその典  
型的な作風を示している。



## 短刀 銘 廣光

法量 (単位 cm)

刃長	28.8	反り	なし
元幅	2.5	元重	0.4

形状 平造、庵棟、反りなし。

鍛 板目流れ肌立ち、白気ごころがある。

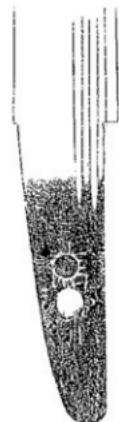
刃文 互の目にのたれ、尖り刃交じり。  
上半飛焼入り、皆焼状になる。  
匂勝ち沸つく。

帽子 亂れ込み地蔵風に返り中程まで  
長く焼き下げる。

影物 表は梵字に護摩箸、裏は梵字に腰槌。

茎 小肉棟、栗尻、鰐目勝手下り、目釘孔1。

説明 廣光は、南北朝時代の相州を代表する刀工で、  
文和、延文、康安、貞治の年号を記したもの  
があって、活躍年代が知られる。



短刀 銘 菅原包則  
応伊藤氏需  
大正癸丑八月日

法量 (単位 cm)

刃長	24.7	反り	わずか
元幅	2.3	元重	0.65

- 形状 平造、庵棟、反りわずかにつく。  
 鍛 大板目に杔目交じり、棟寄り柾目となり  
 肌立ち、地景入る。  
 刃文 互の目乱、頭揃って、足長く入り、沸つき  
 砂流し、筋状に長くかかる。  
 勾勝ち沸つく。  
 帽子 直ぐに先丸く返り、掃かける。  
 茎 棟角、先栗尻、鍔目切の化粧に筋違い、  
 目釘孔1。

説明 銘は「菅原包則」とあるが、菅は本来は管である。菅原包則は、宮本姓で、鳥取県倉吉市に生まれた。備前長船の横山祐包に師事し、のちに江戸に出た。明治9年の廃刀令にあり、事實上その業は閉ざされたが、明治政府や皇室関連の刀剣の制作を行った。明治22年には伊勢神宮の遷宮用の太刀を制作している。明治39年、帝室技芸員に任命された。明治時代を代表する刀工といえる。包則の作品は、本作のような互の目乱を連ねたおとなしいものが多い。

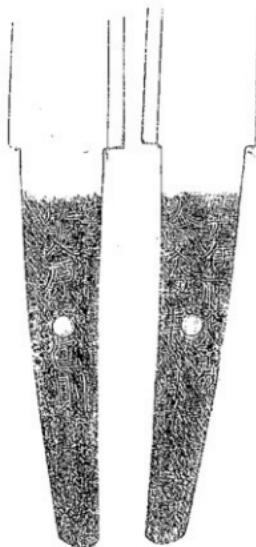
短刀 銘 清重

法量 (単位 cm)

刃長	15.3	反り	内反り
元幅	1.5	元重	0.3

- 形状 平造、庵棟、寸が短く細身、内反り。  
 鍛 小板目よくつむ。  
 刃文 互の目乱、揃って連れ、足入り、勾口しめる。  
 帽子 直ぐに大丸ごころに返り、焼き下げる。  
 茎 棟角、先片山形、鍔目切の化粧に筋違い、  
 目釘孔1。

説明 小さい短刀で、婦人の懐剣としたものだろう。作風から幕末期のものとみられ、源清麿の弟子となった上野国群馬郡京ヶ島村島野（現高崎市島野町）の清重（天保11年・1840～大正8年・1919）の作と考えられる。



## 短刀 銘 豊後国行平

法量 (単位 cm)

刃長 22.6 反り 内反り  
元幅 1.9 元重 0.3

形状 平造、丸棟、内反り。

鍔 板目総体に流れ肌立ち日気る。

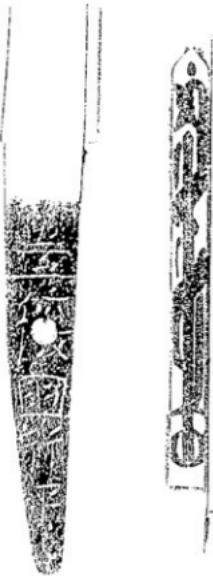
刃文 細直刃、小沸つく。

帽子 直ぐに小丸。

彫物 表に櫛中に俱利伽羅。

茎 丸棟、先栗尻、鈕目不明、目釘孔1。

説明 行平は、豊後の彦山の僧であった定秀の弟子と伝え、国東の鬼籠に住した。元久の年号を記した作が現存している。太刀のほか、短刀も制作している。本作は作風としては行平にみえるが、銘は他の作品と比較して異なる点があり、検討すべき余地を残す。



## 短刀 銘 信国

法量 (単位 cm)

刃長 25.6 反り 0.2  
元幅 2.5 元重 0.55

形状 平造、三ツ棟、浅く反りつき、身巾やや広い。

鍔 板目に杢目交じり、やや白け、  
疲れた映り立つ。

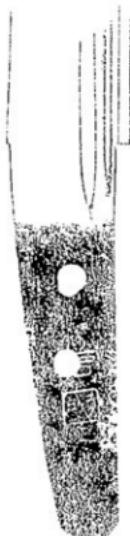
刃文 細直刃勾口しまり、小沸つく。

帽子 直ぐに小丸。

彫物 表は喰違い菖蒲模、裏は梵字に護摩符。

茎 小肉棟、栗尻、鈕目勝手下り、目釘孔2。

説明 信国は南北朝時代から室町時代にかけて栄えた京都の刀工で、何代か続いている。初代は、相州貞宗の弟子で、建武頃の人と伝える、年号を記したものでは、延文が古く、文正が最も下る。本作は、銘は疑問の点があり、しかも再刃の可能性も考えられる。



## 大小刀 銘 藤原清人慎造之

法量 (単位 cm)

刃長 18.0 反り なし  
元幅 1.5 元重 0.2

形状 通常の小刀造、内反り、庵棟。

鍛 小板目。

刃文 浅いのたれ風の互の目乱、先焼刃なし。

帽子 焼刃なし。

茎 角棟、栗尻、鍔目筋違、目釘孔1。



説明 清人は山形県温海の出身で、幕末の名工清麿の弟子。安政から明治時代までの作品がある。本作のような大小刀も2点ほど、現存している。しかし、本作は、上半分の焼きがなく、また銘も検討する余地を残している。

## 薙刀 銘 備前介藤原宗次

慶應二年十二月日

法量 (単位 cm)

刃長 41.5 反り 1.5  
元幅 3.0 元重 0.55

形状 薙刀造、三ツ棟。

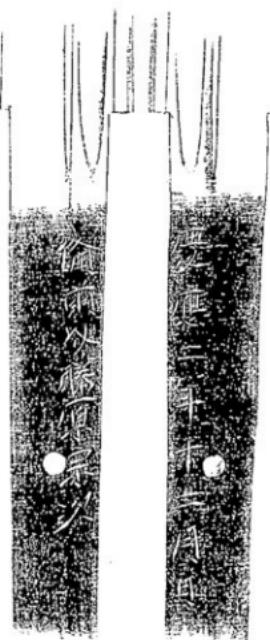
鍛 小板目よくつむ。

刃文 腰の開いた互の目乱、足、刃入り、匁口  
明るく冴える。

帽子 不明。

彫物 表裏ともに腰柄に添柄を搔き流す。

茎 生茎、棟角、先入山形、鍔目切、  
鍔仕立ての下は銳鋤、目釘孔1。



説明 宗次は、固山姓、奥州白河出身で、江戸  
に出て加藤綱英に師事したと伝える。江戸末期の江戸鍛冶を代表する名工で、特に備前伝の作風を得意とした。これは宗次としては、数少ない薙刀の作で、華やかな丁子刃を焼いており、出来も優れている。全面に鍔による仕上跡を残しており、刃もつけていない。現状は一部だけ窓あけしている。おそらく神社などに奉納用として制作したものであろう。

### III 文化財保護事業

#### 1 保護管理運営事業

##### (1) 国有文化財管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の山田信久さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人にお願いし、日常管理を実施した。

また、除草・清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会〔（総社）二子山古墳〕と前橋市連合青年団〔（天川）二子山古墳〕が実施した。

##### (2) 國・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が 21 件、県指定文化財 40 件、市指定文化財 114 件があり、合計 175 件の指定文化財がある。

各文化財には、標柱や説明板を設置し、これらの文化財を訪ねる人々の利便を図っている。

また、今年度は市指定重要文化財 28 件の管理状況調査を実施した。

なお、区分については、次の通りである。

##### ① 指定区分文化財管理

（平成 15. 4. 1）

区分 種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重要美術品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	34	5	0	0	1	0	40
市指定	73	18	7	8	8	0	114
合計	110	34	8	8	9	6	175

##### ② 時代区分文化財

（平成 15. 4. 1）

指定別 時代別 (件数)	合計			合計	
	国指定	県指定	市指定	件数	割合%
天 然	1	0	7	8	4.6
原 始	1	0	0	1	0.6
古 代	15	3	17	35	20.0
中 世	2	18	33	53	30.3
近 世	2	15	40	57	32.6
近 代	0	3	1	4	2.2
民 俗	0	1	16	17	9.7
合 計	21	40	114	175	100

##### (3) 史跡等の除草事業

市が管理する史跡等について、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草作業を委託し、史跡等の環境美化に努めた。

作業を実施した箇所は次の表の通りである。

史跡名	区分	所在地	除草延面積
1 亀塚山古墳	市史跡	山王町 1-28-3	4,968 m <sup>2</sup>
2 金冠塚古墳	市史跡	山王町 1-13-3	4,814 m <sup>2</sup>
3 今井神社古墳	市史跡	今井町 818	4,624 m <sup>2</sup>
4 車橋門跡	市史跡	大手町 2-5-3	750 m <sup>2</sup>
5 天神山古墳	県史跡	広瀬町 1-27-7	1,095 m <sup>2</sup>
6 八幡山古墳	国史跡	朝倉町 4-9-3	24,600 m <sup>2</sup>
7 蛇穴山古墳	国史跡	松社町総社 1587-2	400 m <sup>2</sup>
8 宝塔山古墳	国史跡	松社町総社 1606	4,408 m <sup>2</sup>
9 女塚	国史跡	東大室・二之宮・飯土井町	55,600 m <sup>2</sup>
10 不二山古墳	市史跡	文京町	1,142 m <sup>2</sup>
11 荒砥富士山古墳	県史跡	西大室町	2,700 m <sup>2</sup>
12 前二子古墳	国史跡	東大室町 1501	25,000 m <sup>2</sup>
13 中二子古墳	国史跡	東大室町 1501	53,400 m <sup>2</sup>
14 後二子古墳	国史跡	西大室町 並びに小古墳	25,000 m <sup>2</sup> 2616-1 他
15 古代住居エリア	—	西大室町 2510	1,540 m <sup>2</sup>
計			210,041 m <sup>2</sup>



除草の様子

##### (4) 文化財パトロール

市内を 6 地区に分け、各地区に 1 名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施した。

文化財パトロールの結果は、月に 1 ~ 2 回程度文化財保護課に報告があり、指定文化財等を管理する上で必要な情報が得られた。そのため、緊急事態等に迅速に対応することができた。

各地区の文化財保護指導員は、次の表の通りである。

地 区	氏 名	住 所
中 央	福島 守次	天川大島町
総 社・清 里	関口 淳七	総社町總社
東・元 総 社	中島 孝雄	石倉町
上川淵・下川淵	狩野 久夫	西善町
南櫛・芳賀・桂 萱	栗原 秀雄	荒牧町
城 南	岡野 穂	西大室町

#### (5) 松喰虫・アメリカシロヒトリ防除

市が管理する史跡地内の松の木に発生する松喰虫を防除するするために、農政課に協力して防除薬散布に立ち会った。また、業務委託により、桜の木に発生するアメリカシロヒトリ等の病虫防除のために、薬剤散布を行って、史跡の保全管理を図った。

#### （松喰い虫の防除）

八幡山・大室古墳群

1回目：5月28日(火) 2回目：6月12日(水)

#### （アメリカシロヒトリの防除）

総社二子山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳・天川二子山古墳・大室古墳群

1回目：6月8日(土) 2回目：8月2日(木)

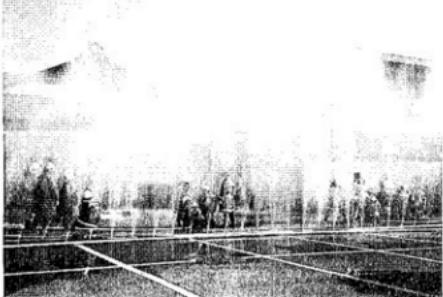
#### (6) 文化財防火査察

「文化財防火デー」に因み、前橋広域消防本部と協力して、下記の指定文化財の立ち入り査察や孝顕寺において消防演習を行った。

前橋市蚕糸記念館、旧アメリカンボード宣教師館、妙安寺、東照宮、源英寺、東福寺、臨江閣本館、茶室、別館、神明宮の甲冑(教育プラザ)、孝顕寺、上野総社神社、光巖寺、駒形神社、善勝寺、日輪寺、徳蔵寺、上泉郷蔵等合計24箇所を査察

文化財査察実施日 平成15年1月23日(木)

消防演習実施日 平成15年1月26日(日)



消防演習（孝顕寺）

#### (7) 前橋市蚕糸記念館の管理・運営

明治45年国立原蚕種製造所前橋支所の本館として岩神町に建設された建物で、その後製造所は、国の研究機関統廃合のため昭和55年茨城県筑波学園都市に移転した。この建物を国から払い下げを受け現在地に移築保存し、一般公開し活用している。

開館時は、委託しているシルバー人材センターから職員が派遣され、見学者への対応を行っている。また、本館内外の現況及び見学者からの要望等について、派遣職員から情報を得て対応した。

本館内では、養蚕・製糸に関する用具・器械等が展示されていることから、「糸の町」前橋を知る上で一つの学習の場となっている。市内の小学生をはじめ、市外や県外から多くの見学者が訪れている。

本年度の入館者は、5,784名であった。

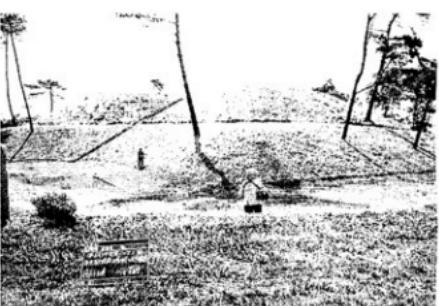
#### (8) 大室公園史跡・民家園の管理

平成14年度大室公園史跡整備事業の進捗により、新たに大室公園史跡管理事業として大室4古墳群と民家園（赤城型民家）が位置づけられた。

史跡管理として、4古墳の周辺除草を年5回業者委託し、その他、草の伸び具合により随時職員による除草等を行ってきた。

民家園においては、民家園保存会という地元の組織に管理運営を委託している。平成14年度には、記帳者だけでも8,200名を超えており、これは同年度に行われた大室公園祭りにより多くの人に知られるようになったためと思われる。また、利用団体も前年に比べ倍以上に増している。

活動状況としては、前年同様南側の畠を利用し、地元の大室小学校の児童と民家保存会の会員とでサツマイモ植え、その収穫やサルビアの苗植など、地域に根ざした活動を行っている。



前二子古墳での除草の様子

## 2 整備事業

### (1)歴史散歩道整備事業

平成 14 年度、総社・元総社歴史散歩道については、例年どおり総社資料館の運営を中心に、史跡等の管理を行った。

#### ①総社資料館の管理

今年度もボランティア説明員（総社地区史跡愛存会）の方々に、開館業務及び展示資料の説明等を行ってもらった。3月には、埼玉県行田市の郷土博物館及びさきたま古墳公園への視察研修を実施し、説明員としての資質向上を図った。

展示関係では、主な展示物等の変更是なかったが、北蔵の照明器具増設を行い、来館者にとって明るく見やすい施設になるように改善を図った。

工事関係では、総社資料館の雨水排水設備設置工事を行い、展示室への雨水浸入を防止した。また、平成 15 年度からの総社資料館駐車場移転に伴う旧駐車場の表土入れ替え工事を実施した。

平成 14 年度も、市内及び市外小・中学校からの団体見学を中心に各種団体及び個人見学者に対しての説明等を行なながら、充実した資料館運営に努めた。なお、開館日数は、246 日となり、来館者数は 4,625 人であった。

#### ②「第 12 回秋元歴史まつり」への協力

『新発掘展』をテーマに、特別展を実施した。今回は、平成 13 年度の発掘現場である荻窪塚遺跡、荻窪倉兼遺跡、五代伊勢宮Ⅱ遺跡、山王若宮Ⅲ遺跡、総社閑泉明神北Ⅱ遺跡、総社甲稲荷塚大道西遺跡、総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡、富田下大日Ⅲ遺跡の以上 8 箇所からの出土品を公開した。

今回は、2 年に一度の武者行列が行われたこともあって、大勢の人で賑わった。



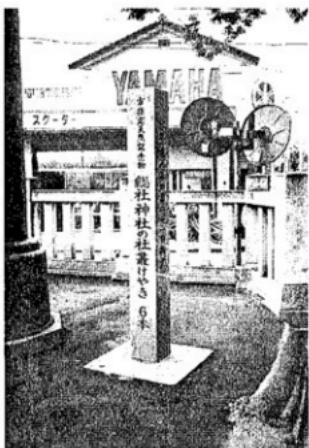
総社資料館特別展の様子

### (2)文化財標柱設置

平成 14 年度は、次の指定文化財の標柱の新設を実施した。

※標柱の新設 1 基

市指定天然記念物 総社神社の社叢けやき 6 本



総社神社の境内に設置された標柱

### (3)史跡境界杭の設置

国指定史跡女堀のうち、二之宮地区の西女堀沼の南側と民地の官民境界の史跡範囲を確定するため、史跡境界杭を 5 本設置をした。また、女堀沼の東側にある水路との境界に史跡境界杭を 3 本設置した。いずれも文化財保護課指定コンクリート杭を埋設した。



西女堀沼の境界杭

### 3 普及事業

#### (1) 第28回前橋市文化財展

- ・テーマ 『はるかむかしの石ものがたり  
～石の道具のいろいろ～』
- ・期間 平成15年1月18日(土)  
～2月2日(月)
- ・会場 前橋市中央公民館1階ロビー  
4階第5会議室

前橋市内および県内で発掘された縄文時代の様々な遺物の中から、石器類を中心とし、用途別にわかりやすく分類・展示し、市民に公開した。展示了主な遺物は、芳賀東部団地遺跡の石皿や石斧、柳久保遺跡群の石鏃、頭無遺跡の細石刃、中原遺跡群の勾玉、熊の穴遺跡の土偶等である。テーマを絞った展示だったため、身近に感じて見学する方が多かった。文化財展を通して、前橋の豊かな歴史と文化について関心や理解を深めてもらう良い機会となった。



展示に見入る見学者

#### (2) 第21回前橋市文化財普及講座

文化財展開催期間に、文化財展と同じ、『はるかむかしの石ものがたり～石の道具のいろいろ～』をテーマに3回開催した。石器時代の生活について専門家の話をきくことができ、同時に発掘の重要性、歴史資料の見方などを学習した。講座終了後、文化財展を入念に見学する受講された方々も見受けられた。会場はすべて中央公民館で行われた。3回の講座の内容は、下表の通りである。

テーマ	講師名	期日
石器の使い方 ～石器の使用痕を通して～	松村和男氏 (県立博物館員)	1/18 (土)
縄文人の生命の道具 ～生きることは食べること～	原 雅信氏 (県立文書館員)	1/25 (土)
石器を読む ～石器づくりの実験を通して～	松沢伸生氏 (岩宿資料館長)	2/1 (土)

#### (3) 第30回前橋市郷土芸能大会

・日時 平成14年11月16日(土)

午後1時～4時

・会場 前橋市民文化会館 小ホール

前橋市をはじめとする赤城山南麓には、人々の心のよりどころとして守り育てられてきた伝統ある郷土芸能が受け継がれてきた。これらは、どれも地域に根ざしたものであり、人々の生活の様子を伺い知ることができる。

しかし、近年次第に人々の生活から忘れ去られようとしている。そこで本大会は、郷土芸能に対する人々の理解を深め、地域文化の高揚を図るとともに、郷土芸能の保護・伝承を目的に、昭和48年以来、開催してきた。今回の公演は、広域圈を含む7団体が郷土芸能を公開した。会場には約600人の来場者があり、多種多様の郷土芸能の競演が好評であった。



上泉の獅子舞

郷土芸能の名称	保存会名	所在地
上泉の獅子舞	上泉獅子舞 保存会	前橋市 上泉町
裸みこし	南町二丁目自治会 ・水神社氏子会	前橋市 南町
大胡神社 太々神楽	足軽町 太々神楽保存会	大胡町 堀越
住吉祭り囃子	住吉町一丁目 おはやし保存会	前橋市 住吉町
込皆戸操り人形 式三番叟	込皆戸三番叟 保存会	柏川村 込皆戸
大友の 百万遍念佛	大友町百万遍 保存会	前橋市 大友町
片貝神社 太々神楽	片貝神社 太々神楽保存会	前橋市 片貝町

#### (4) 文化財めぐりパンフレット等の作成

市内を 6 地区に分けた文化財めぐりパンフレットのうち、今年度は「元徳・東」「芳賀・桂萱」の 2 地区のパンフレットを増刷した。増刷にあたっては、掲載内容の見直しをするとともに、これまでの標語に換え、平成 13 年度の文化財愛護作品コンクールで入賞した標語を掲載した。このパンフレットは希望する市民に配布している。

また、前橋市蚕糸記念館及び総社資料館のパンフレットも一部手直しをして増刷した。

#### (5) 文化財資料の貸出

県内外の博物館・資料館への実物資料の貸出が 6 件、出版社等への写真資料の貸出が 21 件あった。主な実物資料と貸出先は次の通りである。

貸 出 資 料	貸 出 先
柳久保遺跡出土绳文土器	群馬県立歴史博物館
鳥取福寺・頃無遺跡出土石器	群馬県立歴史博物館
内堀遺跡出土石器	岩宿文化資料館
親子猿・犬の付く円筒埴輪	かみつけの里博物館
鳥取福寺・頃無遺跡出土石器	栃木県立博物館
放光寺文字瓦・石製懸尾等	川崎市市民ミュージアム

#### (6) 文化財愛護ポスターの作成

児童生徒の文化財に関する愛護精神を育成するために、文化財愛護作品コンクール(標語と絵画)とその最優秀作品による文化財愛護品ポスター作成を交互に隔年実施している。

今年度は、ポスター作成の年として昨年実施した第 10 回文化財愛護作品コンクール標語の都市長賞(木瀬中 2 年、大沢翠美)。(附属中 1 年、阿部さやか)の作品を組み合わせ、文化財愛護品ポスターを作成した。ポスターは、市内小・中学校及び公民館などの公共施設等に配布し、文化財に対する啓発を図った。



文化財愛護ポスター

#### (7) ビデオ学習教材の作成

学校教育や社会教育の場で活用されることを目的とし、平成 10 年度から学習ビデオの作成を始めた。

今年度は、大室公園内にある大室古墳群・民家園等を紹介する学習ビデオを作成した。本事業は、今年度をもって終了となる。

#### (8) 郷土芸能映像記録保存

市指定重要無形文化財(郷土芸能)映像記録保存は、次世代への伝承と市民への普及活動を目的として行われている。道具や演技の方法、しぐさ、間合い、一舉一動、声などを細かく記録するため、VTR 専門業者に撮影、編集を委託し、永久的な保存を図っていくものである。記録媒体としては、保存するに適した DVD を採用した。本事業は、平成 8 年度から始まり平成 19 年度まで行われる予定になっている。

今年度は、片貝神社太々神楽保存会に依頼し、12 月に片貝神社境内の神楽殿で「片貝神社太々神楽」の撮影を行った。撮影は、衣装及び小道具から始まり、衣装の着付け、大幣から大蛇の舞までの 10 座が行われ、後世に遺すべき映像記録保存にふさわしい完成品となった。



映像記録保存した片貝神社太々神楽

#### (9) 各種講座・文化財めぐりへの講師派遣

公民館の主催する文化財講座、地域の歴史愛好会の学習会等の講師として依頼を受け、学習活動への支援を行った。また、小学校の学習会や社会科見学・自治会の史跡めぐりの講師として、整備が進んでいる大室公園を中心に、蚕糸記念館、臨江閣等の案内・説明を行い、受講者や参加者の文化財への関心や理解を深めることができた。

### (10) 文化財保存団体等への助成

地元に残る文化財の説明板の設置を通して、見学者などに便宜を図っている団体、郷土芸能の継承に力を尽くしている団体や、郷土芸能を継承していく上で、道具等の補修を実施しなければならない保存会に、補助金を交付した。補助金を交付した団体は次の通りである。

- ・総社地区史跡愛存会
- ・前橋市郷土芸能連絡協議会

### (11) 指定文化財の補修・修理

県指定重要無形民俗文化財「下長磯あやつり式三番叟附人形3個」の本三番人形の修理とレプリカ作成を行った。

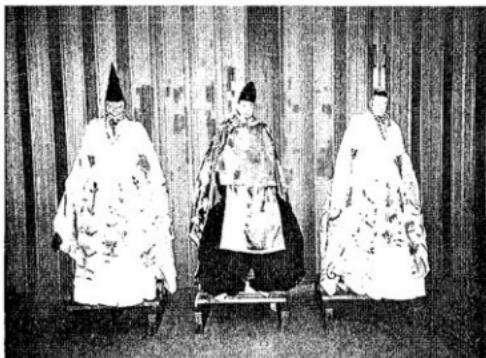
主な修理内容は以下の通りである。

#### <本三番人形の修理>

- ・人形の機構が正しく動作できる程度の応急処置とし、鉄釘の除去、膠で接着等を行った。
- ・鳥帽子は、色の塗り直し、新しく紐をつけた。
- ・黒式尉は傷みがひどいため、黒塗りで色止め、ひび割れ部分を膠で接着、絹毛でまゆ、ひげのつけ替えを行った。
- ・三番叟の頭の中に安永9年の銘、千歳の頭の中に安永10年の銘があることが確認された。

#### <レプリカ作成>

- ・レプリカの人形及び衣装については、本体と同寸法で復元し、人形の頭は現在の桐彫りではなく保存性を考慮して檜彫りとした。



修理した本三番の人形

### (12) 刀剣の手入れ

本市が寄附受け入れをした貴重な刀剣に鍔等の発生がないようにし、良好な状態を保つために、専門業者に委託し刀剣の手入れを実施した。実施時期は9月と3月で、年2回とした。保管は温度・湿度ともに一定に保たれている施設で行っており、刀剣の管理に万全を期した。

### (13) 大室古代生活体験学習

今年度から始まった新規事業である。後二子、中二子、小二子の3古墳、赤城型民家を中心とする民家園、さらには古代住居エリアの整備を終えた大室公園を有効活用していく一環として行われた。また今年度から公立の小・中学校において完全週5日制となり、それに対応する事業でもある。

実施内容は次の通りである。

期 日	内 容	会 場	参 加 者
第 6 月 23 日 1 回	○火おこし (F) 舞ギリ方式と火打金方式 (前日雨天での火おこしを行った。 のため日曜日に実施) ○蘇づくり 牛乳を煮詰めて、蘇づくりを行った。 ○古墳めぐり 並ごとにクイズ形式のオリエンテーリングを行った。	古代住居エリア	小中学生 55名
第 8 月 24 日 2 回	○勾玉づくり 滑石を紙やすり等で削って、勾玉を作った。 ○古代のすごろく 埴輪列をマス目にして、中型埴輪列 平安時代に流行した盤双六 を人間をコマにして行った。	中二子古墳 中型埴輪列	小中学生 保護者等 55名
第 10 月 26 日 3 回	○縄文土器づくり (土) テラコッタ粘土を使って、 縄文土器を制作した。	民家園・離れ	小中学生 保護者等 51名

参加者の感想

#### 第1回 蘇づくり

「蘇は甘くておいしかった。火をつけるのが難しくて、昔の人は大変だと思った。」 5年生

#### 第2回 勾玉づくり

「思い通りの形の勾玉ができた。」 4年生

#### 第3回 縄文土器づくり

「土器づくりの大変さがわかった。縄文時代の人はすごい。」 6年生



火おこしに挑む参加者

## 4 埋蔵文化財発掘調査事業

平成14年度の発掘調査事業をふりかえって

平成14年度は13件の発掘調査が行われた。調査の内訳は、国指定史跡古墳の整備に伴う発掘調査1件、国指定史跡古墳の範囲確認調査1件、公共開発に伴う発掘調査が11件であった。

公共開発に伴う発掘調査に関しては、区画整理事業に伴うものが6件、工業団地造成に伴うものが3件、その他、地区開発事業に伴う調査、小学校の校舎増築に備えての調査が1件ずつであった。

平成14年度の調査面積は37,772.8m<sup>2</sup>であり、その内、過年度より継続して実施している区画整理事業に伴う発掘調査、同じく工業団地造成に伴う発掘調査が大きな部分を占め、合計すると全調査面積約9割に上った。

全13件の調査から主要な調査概要を列記すると以下の通りである。

史跡前二子古墳の発掘調査は、石室西方に掘られた玄室側壁に到達する探査坑の修理と、次年度に予定される石室の解体修理に備えての資料収集を目的に実施した。調査の結果、古墳上段部の葺石の状況、埴丘盛土の構築状況、石室裏込の構造等が解明され、古墳整備に向けて貴重な資料を得ることができた。

史跡八幡山古墳の確認調査は、史跡の追加指定に備え古墳周囲の範囲を確認することを目的に実施した。周囲推定範囲に東西南北方向に計6本の確認トレンチを設定して調査を行った結果、擾乱で土層が破壊され不明確な部分もあったが、その内の2カ所で基盤砂層の上昇が認められ周囲の立ち上がりを確認することができた。

総社閑泉明神北Ⅲ遺跡、総社甲稻荷塚大道西Ⅲ遺跡、元総社小見内Ⅳ遺跡、元総社小見Ⅱ遺跡、(同)Ⅲ遺跡、元総社草作Ⅳ遺跡は、元総社蒼海地区土地区画整理事業に伴う発掘調査である。6遺跡合わせて約11,000m<sup>2</sup>の調査を実施した結果、縄文時代から平安時代までの竪穴住居跡250軒以上、掘立柱建物跡10数軒の他、40条以上なる多数の溝跡が検出された。この中には国府や蒼海城との関連が想定される硬化面を伴う規模の大きい溝跡が数条含まれる。

五代南部工業団地造成に伴う発掘調査は、五代伊勢宮V遺跡、(同)VI遺跡、五代中原Ⅱ遺跡の3遺跡で合計約23,000m<sup>2</sup>の調査を実施し、縄文時代前期から平安時代までの竪穴住居跡130軒以上を検出した。中でも、五代中原Ⅱ遺跡において古墳時代前期の住居が多数検出され、S字状口縁や折り返し口縁をともなう夥しい数の土器が出土したことが特筆される。また、五代伊勢宮VI遺跡においては竪穴式住居を拡張して鍛冶工房を作り替えた遺構が見つかっており、ここからは地床炉の他に、前例の知られていない石床炉が検出されている。

荻窪倉兼II遺跡は荻窪地区開発事業に伴う発掘調査であるが、約3,000m<sup>2</sup>の調査区から奈良～平安時代にかけての集落跡が確認され、竪穴式住居跡36軒、掘立柱建物跡10軒が検出された。出土した土器の中には「東」・「林」・「長」等と判読できる墨書きを伴うものも含まれていた。

平成14年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	調査期間
1	元総社小見内Ⅳ遺跡(もとそうじやおみうち)	元総社町	1,924	区画整理事業	平成14. 6. 4～平成14. 11. 19
2	元総社小見Ⅱ遺跡(もとそうじやおみ)	元総社町	1,917	区画整理事業	平成14. 8. 20～平成14. 12. 15
3	元総社小見Ⅲ遺跡(もとそうじやおみ)	元総社町	4,594	区画整理事業	平成14. 8. 20～平成14. 12. 29
4	元総社草作Ⅳ遺跡(もとそうじやくさくり)	元総社町	846	区画整理事業	平成14. 8. 20～平成14. 12. 29
5	総社甲稻荷塚大道西Ⅲ遺跡 (そうじやこうとうかづかおおみちにし)	総社町総社	1,416	区画整理事業	平成14. 6. 4～平成14. 10. 30
6	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡 (そうじやかんせんみょうじんきた)	総社町総社	435	区画整理事業	平成14. 6. 28～平成14. 8. 26
7	荻窪倉兼II遺跡(おぎくぼくらかね)	荻窪町	2,982	開発整備事業	平成14. 5. 15～平成14. 9. 4
8	堀脇西Ⅲ遺跡(つみぬまにし)	堀脇町	510	校舎増築工事	平成14. 10. 9～平成14. 11. 19
9	五代伊勢宮V遺跡(ごだいにせみや)	五代町	7,844	工業団地造成	平成14. 5. 14～平成14. 12. 12
10	五代伊勢宮VI遺跡(ごだいにせみや)	五代町	9,000	工業団地造成	平成14. 8. 19～平成15. 3. 7
11	五代中原Ⅱ遺跡(ごだいな中原)	五代町	6,000	工業団地造成	平成14. 8. 19～平成15. 3. 7
12	八幡山古墳(はちまんやまこふん)	朝倉町	112.8	範囲確認調査	平成14. 7. 2～平成14. 7. 12
13	前二子古墳(まえふたごこふん)	西大室町	192	史跡整備	平成14. 8. 20～平成15. 3. 14

平成14年度試掘調査一覧表

番号	所 在 地	開発面積 m <sup>2</sup>	開 発 原 因	調 査 年 月 日	調 査 結 果
1	宮地町 58-8	2, 0 0 0	店舗建設	平成14. 4. 9	道耕は検出されず。
2	宮地町 334-1 他	3, 0 1 3	店舗建設	平成14. 4. 9	道耕は検出されず。
3	青柳町 340-5	5 9 7	消防団跡地	平成14. 4. 1 0	道耕は検出されず。
4	田口町字下 789-1	1 6 9	高庄寺電鉄軌跡建設	平成14. 4. 1 0	道耕は検出されず。
5	東善町 70-4 他	1, 0 6 4	事務所建設	平成14. 4. 1 1	道耕は検出されず。
6	六供町 1135-1 他	2, 1 1 8	事務所建設	平成14. 4. 1 1	道耕は検出されず。
7	大友町三丁目 12-5	8 1 7	店舗建設	平成14. 4. 1 1	道耕は検出されず。
8	古市町字七仏 426-1・426-3	1, 3 3 5	宅地造成	平成14. 4. 1 9	道耕は検出されず。
9	下新町字中津 306-308	3, 9 7 0	宅地造成	平成14. 4. 1 9	道耕は検出されず。
10	鶴町櫛野 351-1・351-5	7 8 0	アパート建設	平成14. 4. 2 4	道耕は検出されず。
11	青柳町 504-2	1, 5 6 6	老人ホーム建設	平成14. 4. 2 6	道耕は検出されず。
12	鶴町二丁目 132-4	2, 6 1 1	宅地造成	平成14. 5. 2	道耕は検出されず。
13	石倉町二丁目 8-2 他	9 6 2	アパート建設	平成14. 5. 2	道耕は検出されず。
14	西園町一丁目 11-40	1, 5 1 8	宅地造成	平成14. 5. 2	道耕は検出されず。
15	鶴町字道上 79 他	2, 9 8 0	宅地造成	平成14. 5. 1 0	道耕は検出されず。
16	西町 528-1	1 1, 3 8 7	仓库建設	平成14. 5. 1 4	道耕は検出されず。
17	西井町 421	6, 1 7 4	仓库建設	平成14. 5. 2 1, 2 2	道耕は検出されず。
18	東片貝町 427-1	1, 6 0 5	アパート建設	平成14. 5. 2 3	道耕は検出されず。
19	石井町 1010-3	5, 4 0 0	道路建設	平成14. 5. 3 0, 3 1	道耕は検出されず。
20	安田町二丁目 10-1	2, 0 6 4	アパート建設	平成14. 7. 2 2	道耕は検出されず。
21	青柳町字南西 768-1	1, 3 6 2	アパート建設	平成14. 7. 2 5	道耕は検出されず。
22	山王町 77-4	8 2 1	墓地造成	平成14. 8. 6	古墳築造時の埴輪画を確認した。
23	富士町 1135-2 他	1 6 5	高庄寺電鉄軌跡建設	平成14. 9. 4	遺構は検出されず。
24	後原町 231-1 他	1 0, 0 0 0	宅地造成	平成14. 9. 2 4, 2 5	道耕は検出されず。
25	上新田町字瀬野 1190-1 他	1, 6 7 6	宅地造成	平成14. 1 0. 2	道耕は検出されず。
26	鷹見町 525-3・525-7	2, 0 4 6	診療所併用住宅	平成14. 1 0. 3	道耕は検出されず。
27	新田町字西福境 1234-1 他	2, 2 8 0	宅地造成	平成14. 1 0. 8	道耕は検出されず。
28	堀之下町 155	2, 1 8 7	社務所兼管理棟	平成14. 1 0. 1 6	遺構は検出されず。
29	天保町字二丁子山前 96-1	6 3 7	アパート建設	平成14. 1 1. 1, 1 3	遺構は検出されず。
30	上井舟町 1212-1 他	3, 7 8 4	保育園建設	平成14. 5. 2, 1 3	遺構は検出されず。
31	高井町一丁目 22-10 他	4, 6 6 6	宅地造成	平成15. 2, 1 7	道耕は検出されず。
32	小坂子町 102-1	3, 7 2 4	診療所建設	平成15. 2, 1 9	道耕は検出されず。
33	鶴町字鶴谷社字城川 1349 他	2, 3 4 7	宅地造成	平成15. 2, 2 5	道耕は検出されず。
34	鶴町字城野下西久保 1127-1	2, 3 3 6	宅地造成	平成15. 2, 2 4	道耕は検出されず。
35	青柳町字八幡橋 447-1	2, 9 5 6	宅地造成	平成15. 3, 3 4	道耕は検出されず。
36	鶴町字小社 3159-2	2 4 0	道路建設	平成15. 3, 1 3	道耕は検出されず。
37	下新田町字下 601-1 他	1, 5 2 7	ケア型マンション	平成15. 3, 1 9	道耕は検出されず。
38	下佐戸町 466-3・467-3	2, 0 0 2	店舗建設	平成15. 3, 2 0	道耕は検出されず。

平成14年度立会調査一覧表

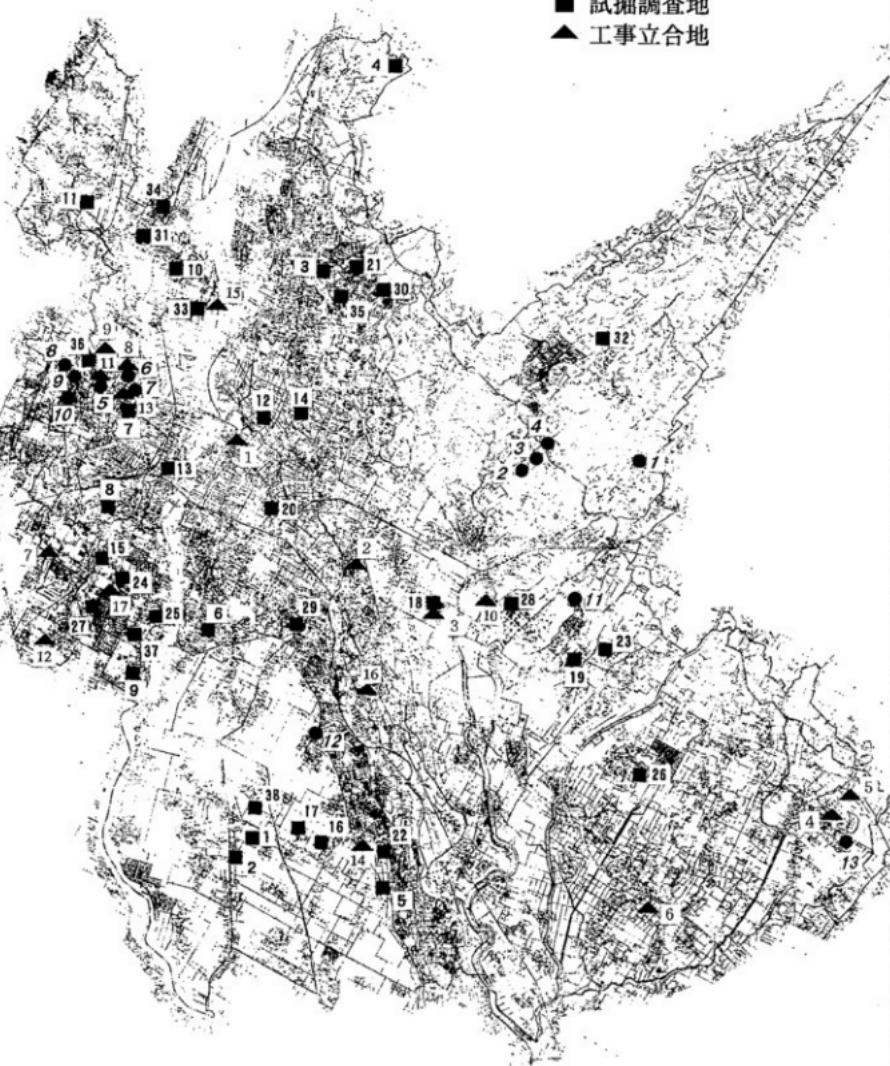
番号	所 在 地	開発面積 m <sup>2</sup>	開 発 原 因	調 査 年 月 日	調 査 結 果
1	大手町三丁目 13-2	6 8 1	車庫新築	平成14. 7. 9	道耕は検出されず。
2	西片貝町四丁目 12-1・12-22	1, 6 4 6	アパート建設	平成14. 8. 1 9	道耕は検出されず。
3	東片貝町 427-1	1, 0 0 5	アパート建設	平成14. 9. 1 9	道耕は検出されず。
4	西大宮町 2517	9 0	大宮公園全体埋立地建設	平成14. 9. 2 7	道耕は検出されず。
5	西大宮町 2556	4 0	大宮御幸町駅跡地造成工事	平成14.10.7～10.10	道耕は検出されず。
6	今井町 956-2	9 9 0	調査時点では未定	平成14. 1 2. 1 0	道耕は検出されず。
7	江戸川町字61-2 他	1, 9 0 0	宅地造成	平成14. 1 2. 2 4	道耕は検出されず。
8	鶴町字鶴谷社 3029-1 他	6 4 0	五ヶ所用水理工事	平成15. 1. 7	道耕は検出されず。
9	元宿町 1864-3 他	1, 0 5 0	道路駁接工事	平成14.11.28～15.1.7	道耕は検出されず。
10	石岡町 55 他	5 1 7	道路駁接工事	平成15. 1. 8	道耕は検出されず。
11	元宿町 3164	3 8 0	配水管敷設	平成15.1.8～3.6	道耕は検出されず。
12	川田町字福浦 19-3	2, 0 7 4	診療所兼用住宅	平成15. 1. 2 0	道耕は検出されず。
13	鶴町字鶴谷社地内	9 0 0	道路舗装改良工事	平成15. 1. 3 0, 3 1	道耕は検出されず。
14	山王町 76-5	6 0 0	宅地造成	平成15. 1. 3 5	道耕は検出されず。
15	鶴町字鶴谷社字入城川 1264-1	1, 2 9 5	宅地造成	平成15. 1. 3 7	道耕は検出されず。
16	天川大島町字三町田 1326	6, 5 8 5	宅地造成	平成15. 1. 2 8	道耕は検出されず。
17	後原町 7-1	1, 2 2 7	宅地造成	平成15. 3. 3 1	道耕は検出されず。

平成14年度埋蔵文化財報告書一覧表

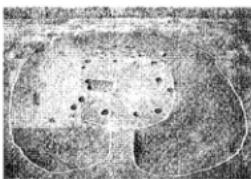
番号	報 告 書 名	道 路 名	発 行 者	発行年月日	備 考
1	元鶴社香苗道跡群	元鶴社小見内IV道跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査班	平成15.3.25	14年度調査
2	元鶴社香苗道跡群	元鶴社小見II道跡	#	平成15.3.7	#
3	元鶴社香苗道跡群	元鶴社小見III道跡	#	平成15.3.7	#
4	元鶴社香苗道跡群	鶴町伊勢原駅道	#	平成15.3.25	#
5	元鶴社香苗道跡群	鶴町伊勢原駅道	#	平成15.3.15	13・14年度調査
6	堤防西Ⅲ道跡	堤防西Ⅲ道跡	#	平成15.3.15	14年度調査
7	五代伊勢宮V道跡	五代伊勢宮V道跡	#	平成15.3.20	#
8	五代伊勢宮IV道跡	五代伊勢宮IV道跡	#	平成15.3.7	#
9	史跡 八幡山古墳	八幡山古墳	前橋市教育委員会	平成15.3.25	#
10	市内道跡発掘調査報告書	各市内道跡	#	平成15.3.25	#

## 調査地等位置図

- 発掘調査地
- 試掘調査地
- ▲ 工事立合地



## 1 元総社小見内IV遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

## 2 元総社小見II遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 土地区画整理事業  
所在地 前橋市元総社町地内  
調査期間 平成14年6月4日  
～平成15年11月19日  
担当者 齊木一敏・高坂麻子  
調査面積 1,924 m<sup>2</sup>  
調査の経緯 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が区画二課より前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。  
調査の成果 発掘調査で検出された遺構は、堅穴住居跡34軒、掘立て柱建物跡3軒、堅穴状造構7基、溝跡6条、溝状造構6条、道路状造構2条、土坑132基、土坑墓8基、井戸跡2基、ピット85基、周溝状造構2基、不明造構1基である。出土遺物は、土師器・須恵器をはじめ、灰釉陶器・青磁片・カララケ・瓦・石製品・鉄製品・白玉等である。

堅穴住居跡をI期（～7世紀前半、律令期以前）、II期（7世紀後半～10世紀初頭、律令期）、III期（10世紀前半～、律令期以後）の3期に分けて比較すると、I期では7世紀半ば

が1軒、II期では7世紀後半が1軒、8世紀代が9軒、9世紀前半が1軒、III期では、10世紀が14軒、11世紀前半が1軒が検出された。

I期の堅穴住居跡の検出がII・III期に比べ極度に少なく、II期以降つまり國府が造営されるまでは、この地区が未開発の傾向にあったことが分かる。

II期になると、堅穴住居跡数が増加していくが、過年度に調査した周辺の遺跡と比べると少ない。このことから、國府成立に伴い、本遺跡地にも人々が生活し始めるが、國府周辺へ土地の使用の規制で人口の増加は起こらなかったと思われる。

III期では、それまでに比べ検出の割合が増加しているが、これは可耕地の拡大、集落の計画的配置等の条件が重なり、人口が爆発的に増加したためと考えられる。

また、As-B 軽石混土層を埋土とする、上幅が4.60mにもなる溝跡が3条検出されている。國府や蒼海城と関連するものと考えられ、今後の調査が待たれるところである。

事業名 土地区画整理事業  
所在地 前橋市元総社町地内  
調査期間 平成14年8月20日  
～平成14年12月15日  
担当者 齊木一敏・高橋一彦（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）土生朗治・松川由之（山武考古学研究所）  
調査面積 1,917 m<sup>2</sup>  
調査の経緯 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行うことになった。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもと、山武考古学研究所が実施した。

調査の成果 本遺跡は國府推定域の北西側に位置し、調査区の北側には國分尼寺が隣接する地域である。

発掘調査で検出された遺構は、堅穴住居跡63軒、掘立て柱建物跡2棟、堅穴状造構1基、溝跡5条、道路状造構3条、土坑25基である。出土遺物は加曾利式土器・石器類・土師器・須恵器・灰釉陶器・綠釉陶器・瓦・輸入陶磁器・金属製品・陶器類

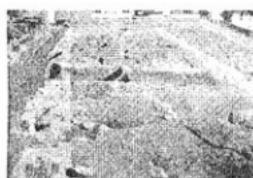
・石製品等である。

元総社小見内IV遺跡と同様に堅穴住居跡を3期に分類してみると、I期では円形で中央部に炉を持つ縄文時代のものが2軒、4～7世紀前半が16軒、II期では7世紀後半～8世紀が6軒、9世紀が17軒、III期では9軒が検出された。

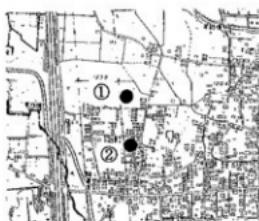
I・II期においても生活痕が伺えるが、元総社小見内IV遺跡と異なりIII期では逆に減少傾向にある。これは、この地が國府中心部から幾分離れていたため、造営当時には生活圏として使用され、國府が衰退するにつれ寂れていったことを示すと考えられる。

また、調査区の東側では、南北方向に延びる溝跡が2条、南北方向から東西方向に屈曲して延びる溝が1条検出された。このうちの1条は底辺の広い逆台形の南北方向の溝跡で、底面の両側に側溝状の小溝を持ち中央部は全体に硬化し、敷面の硬化面が確認されている。これらは國府期以後に土地区画を維持・再利用していた可能性が考えられる。

### 3 元総社小見Ⅲ遺跡 元総社草作Ⅴ遺跡



元総社草作Ⅴ遺跡調査区全景



遺跡位置図（前橋現形図2万分の1）

- ①元総社小見Ⅲ遺跡
- ②元総社草作Ⅴ遺跡

事業名 土地区画整理事業  
所在地 前橋市元総社町地内  
調査期間 平成14年8月20日  
～平成14年12月29日  
担当者 齋木一敏・高橋一彦（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・長谷川一郎・土生朗治（山武考古学研究所）  
調査面積 5,440 m<sup>2</sup>

調査の経緯 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が区画二課より前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行うことになった。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもと、山武考古学研究所が実施した。  
調査の成果 元総社小見Ⅲ遺跡の発掘調査で検出された遺構は竪穴住居77軒、溝跡16条、道路状遺構2条等である。出土遺物は、加曾利E式土器、石器類、土師器、須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器、瓦等である。

元総社草作Ⅴ遺跡の発掘調査で検出された遺構は、竪穴住居38軒、溝跡2条、等である。出土遺物は土師

器、須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器、白磁、瓦等である。

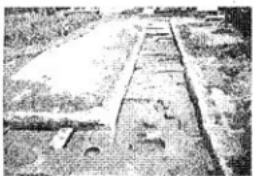
2つの遺跡から検出された竪穴住居跡を元総社小見Ⅲ遺跡と同様に3期に分類すると、I期では縄文時代の竪穴住居1軒、6～7世紀前半22軒、II期では7世紀後半～8世紀前半19軒、8世紀後半～10世紀初頭が10軒、III期では10世紀前半～11世紀34軒となる。

これらを時代別に比較すると、II期で最も増加し、III期では次第に減少していくという傾向にある。II期における国府造営と生活基盤形成に伴う人口増加および国府衰退による人口減少が推定される。

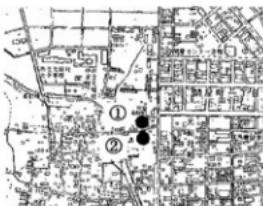
中世以降の造構として検出された規模の大きい墓研状の断面をもつ溝跡は蒼海城に関する墓盤目状の堀割りの一部と考えられる。

また、草作Ⅴ遺跡の住居跡からは白磁碗が出土している。推定国府城の西辺にあたり、国分僧寺・尼寺にも近接していることにつながりのあるものと考えられ、今後の調査が待たれるところである。

### 4 総社甲種荷塚大道西Ⅲ遺跡 総社閑泉明神北Ⅲ遺跡



総社閑泉明神北Ⅲ遺跡



遺跡位置図（前橋現形図2万分の1）

- ①総社甲種荷塚大道西Ⅲ遺跡
- ②総社閑泉明神北Ⅲ遺跡

事業名 土地区画整理事業  
所在地 前橋市総社町総社地内  
調査期間 平成14年5月27日  
～平成14年10月26日  
担当者 高橋一彦・近藤 薫  
調査面積 約1,851 m<sup>2</sup>

調査の経緯 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。  
調査の成果 今年度もI期（～7世紀前半、律令期以前）の竪穴住居跡の検出数が5軒（古墳時代後期）と少なく、特に6世紀末から7世紀前半の遺構は検出されなかった。この調査結果は、昨年度の調査同様、国府成立前にはこの周辺には大きな集落は形成されなかつたという見解の範囲を拡大した。また住居の主軸方向をみると、他の時期より幅が広く、住居の方向に統一が成されていないI期の特徴を裏付けしている。

II期（7世紀後半～10世紀初頭、律令期）の竪穴住居は、古墳時代の竪穴住居より小型化・均一化傾向が

確認できる。更に平安時代から10世紀初頭になると、小規模化していく一般傾向が確認できる。国府との関連でみるとこの地域は外縁部にあたり、多くは農耕地として利用され、その微高地を選んで小規模な集落が散在していた様子が窺える。

III期（10世紀前半～、律令期以後）に住居の密集がみられるが、これは国府機能の衰退と共に、規制が緩和し、この地への人々の流入が著しくなったとの見方もできるのではないか。また、竪穴住居の重複が著しく検出されていることからみても、この地が当時の人々にとって住み良い地であったと推測される。10世紀代の竪穴住居の規模をみると、II期よりも小規模な住居となる。11世紀から12世紀代の竪穴住居は、均一化傾向が崩れ、分散化の傾向がみられる。集落内の階層分化が進み、貧富の差が表れているのかも知れない。主軸方向をみると、II期より更に画一化され都市的なまとまりのある景観がみられたと想像できる。

## 5 萩窓倉兼II遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 萩窓地区開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査  
所在地 前橋市萩窓町 731 番地  
調査期間 平成14年5月15日  
担当者 平野岳志・横澤真一  
小林和美  
調査面積 2,982 m<sup>2</sup>

調査の経緯 萩窓地区開発整備事業区域内でのため池建設に伴って発掘調査が実施された。調査区は前橋市北東部の赤城山南麓、県道渋川大胡線沿いに所在する前橋市水道局施設萩窓配水池場北側に位置する。緩やかに南に向かって傾斜する調査地は、現状では、牧草地及び桑畠であった。

調査の成果 本年度調査では奈良から平安時代（8世紀前半から10世紀後半）にかけて集落跡を確認した。検出土された遺構は住居跡36軒、掘立柱建物跡10棟、溝跡4条であった。西側の遺構は削平されていて遺存度が悪かったが、大部分の遺構の残存状況は概ね良好と言える。

住居跡では、ほとんどのもので甕を確認できた。それらは、どれも東

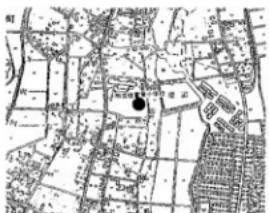
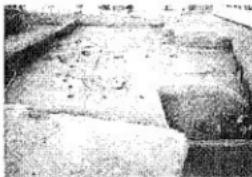
壁に敷設されており、石を使って壁面を補強しているもの多かった。中でも最北部で検出されたH-64号住居跡では、袖や天井部を石で組んだ甕が良好な遺存状態で検出された。また、南側のH-32号住居跡では竪穴の面積は33.72 m<sup>2</sup>を測り、出土遺物も2,875点にのぼった。

住居跡から出土した遺物は、土師器や須恵器の杯、椀、甕等がその中心を占めるが、中には「東」・「林」・「長」等と判読できる墨書きされた土器片もあり、多岐に亘った。

掘立柱建物跡は出土遺物に乏しかったが、棟方向が近似する住居跡から存続期間を推定することができた。そのほとんどが、南側に集中しており、集落の中心が南側にあったことをうかがわせた。

平成13年度調査の萩窓倉兼遺跡の成果を含めて、本遺跡の調査結果を総合的に判断すると、本遺跡の集落は8世紀から10世紀まで伝統的に存続していた集落であり、その中心は南側であったと言える。

## 6 堤沼西III遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 前橋市立桂荳東小学校校舎増築に伴う埋蔵文化財発掘調査

所在地 前橋市堤町 450 番地 2 他  
調査期間 平成14年10月9日  
～11月19日

担当者 平野岳志・小林和美  
調査面積 510 m<sup>2</sup>

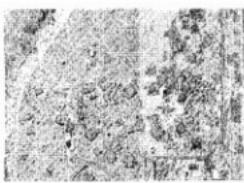
調査の経緯 前橋市立桂荳東小学校校舎増築に伴って発掘調査は実施された。調査地は前橋市街地から東方に6.2kmほど離れた赤城山南麓の開析谷に面した南北に長い舌状台地上に位置する。

調査の成果 本年度発掘調査では、住居跡3軒、鐵冶工房跡1軒、掘立柱建物跡3棟、溝跡5条、土抗24基、ピット48基の遺構が確認された。出土した遺物などから、本遺跡地は8世紀から9世紀代の集落跡と推定される。H-1号は北側に張り出し部分を持つ住居で、壁高も深く良好な遺存度であった。土師器・須恵器等の土器類をはじめ、石製鋤鍬車や鉄製品などバリエーションは豊富であり、これらの遺物から8世紀中頃から末

期の所産と比定された。H-2号住居跡は東側・南側が調査区外であったため、部分的な調査だけであった。出土遺物も限られていたが、8世紀末と比定された。H-3号住居跡は規模も出土遺物点数も多かった。土師器・須恵器の杯、椀、甕の他、灰釉陶器も確認され、器種も多岐にわたった。

H-4号は、一般的な住居とは構造や出土遺物を異にしていた。遺構埋没土中には鍛造飛沫や総計70kgに及ぶ鉄滓を含んでいた。遺構内には、鐵冶炉、鐵滓廐棄穴・炭置穴を持っていた。また、鍛造に用いた鉄床石も、遺構の中央部で確認された。さらに、甕が敷設されていないことや遺構の竪穴外部に柱を立てて支えるほどの高い上屋が想定できることから、本遺構は鍛冶工房跡とみられる。

## 7 五代伊勢宮V遺跡



事業名 五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査  
所在地 前橋市五代町地内  
調査期間 平成14年5月14日～12月12日

担当者 近藤雅順・渡邊三男  
調査面積 7,844 m<sup>2</sup>  
調査の経緯 五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

立地 五代町は前橋市役所から北東の方向約5kmの赤城山南斜面に位置し、周辺の地区と合わせて「芳賀地区」と呼称されている。五代町の一部は住宅・工業団地造成計画により開発されたが、町の大部分に田畠が残っており、酪農も盛んであり、住宅はまばらな状況である。土地の高低差があり、高いところは住宅、畑、牧草地であり、低いところは田畠になっている。

調査の成果 本遺跡地周辺は、土地改良事業により現耕作土より約40cm程度下で一度削平されており、遺構は整地下の削り残し部分で確認される。

本遺跡は、土層や出土遺物から縄文時代前期から奈良・平安時代の集落遺跡で、精査の結果、堅穴住居跡65軒、掘立柱建物跡6棟、堅穴状遺構5軒、溝跡6条、小石櫛1基、土坑79基、柱穴163基、井戸跡2基が検出

された。

縄文時代の遺構は、前期堅穴住居跡4軒、中期堅穴住居跡6軒、土坑63基で、調査区西側に多く分布している。前期住居跡は、石組炉が検出されたものが1軒で、遺物は黒浜式・諸磧b式・諸磧a式土器等が出土した。中期住居跡は、炉体土器を伴う石組炉が検出されたものが3軒で、遺物は加曾利E II式・曾利式土器を中心出土した。

古墳時代の遺構は、後期堅穴住居跡20軒、終末期堅穴住居跡2軒、小石櫛1基である。後期住居跡の中に、規模や立地場所で他の住居跡と違うものがあり、当時この辺りが集落の中心部分であったと推測される。

奈良・平安時代の遺構は、堅穴住居跡30軒、掘立柱建物跡6棟、溝跡2条である。調査区東側に住居跡の薄い部分があり、そこに掘立柱建物跡が5軒あることから、集落の中心部分であったと推測される。遺物では、3種類ほどの墨書き土器や内面に線刻のある縄締陶器皿片等が出土した。

その後のこの地であるが、中世以降と考えられる地下式土坑や堅穴状遺構が検出されたり、近世の溝跡が検出されたりと、今まで絶えることなく人々の生活が続いていると考えられる。

基が検出された。

縄文時代の遺構は、中期堅穴住居跡21軒、土坑722基で、住居跡は調査区中央を取り囲むように、土坑は調査区北側から西側にかけて濃く検出された。10軒の住居跡で石組炉や地床炉が検出され、土坑からは完形に近い大形の深鉢等が多数出土している。

奈良・平安時代の堅穴住居跡8軒のうち1軒は、鍛冶工房に作り替えられている。鍛冶工房跡は、一般的な住居跡を拡張して作られており、地床炉の他に、前例が知られていない石床炉も検出された。

五代中原II遺跡 本遺跡は、土層や出土遺物から縄文時代から古墳時代の集落遺跡で、精査の結果、堅穴住居跡39軒、掘立柱建物跡3棟、土坑25基、柱穴58基が検出された。

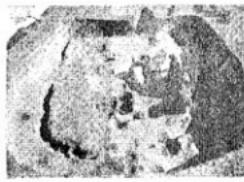
縄文時代の遺構は、堅穴住居跡4軒で、そのうち1軒で炉跡が検出され、遺物は、前期と考えられる土器片と石器が少量出土した。

古墳時代の遺構は、堅穴住居跡35軒で、そのうち27軒で炉跡が検出された。遺物は、S字状口縁や折り返し口縁、刷毛目紋の壺、脇部が球形形状や底部が平底で突出する壺等が出土し、古墳時代前期から後期初頭に位置するものと考えられる。

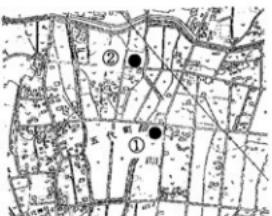


遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

## 8 五代伊勢宮VI遺跡 五代中原II遺跡



五代伊勢宮VI遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

- ①五代伊勢宮VI遺跡
- ②五代中原II遺跡

事業名 五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査  
所在地 前橋市五代町地内  
調査期間 平成14年8月19日～平成15年3月7日

担当者 近藤雅順（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）荻野博巳・権田友寿（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 15,000 m<sup>2</sup>

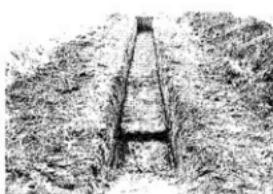
調査の経緯 五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

立地 五代町は前橋市役所から北東の方向約5kmの赤城山南斜面に位置し、周辺の地区と合わせて「芳賀地区」と呼称されている。五代町の一部は住宅・工業団地造成計画により開発されたが、町の大部分に田畠が残っており、酪農も盛んであり、住宅はまばらな状況である。土地の高低差があり、高いところは住宅、畑、牧草地であり、低いところは田畠になっている。

調査の成果

五代伊勢宮VI遺跡 本遺跡は、土層や出土遺物から縄文時代中期から奈良・平安時代の集落跡で、精査の結果、堅穴住居跡44軒、掘立柱建物跡3棟、堅穴状遺構1軒、溝跡8条、土坑1073基、柱穴363基、井戸跡2

## 9 八幡山古墳



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 八幡山範囲確認調査  
所在地 前橋市朝倉町四丁目9-3  
調査期間 平成14年7月2日  
～平成14年7月12日  
担当者 高山 刚・小峰 篤  
鈴木雅浩  
調査面積 112.8 m<sup>2</sup>

調査の概要 八幡山古墳は昭和41年年度と平成10年度に古墳周囲の確認を目的とする調査が実施されている。これらの調査では葺石根石や周囲内部の土層堆積状況を把握・記録し、一応の成果を得ているが墳丘東側の調査が未着手であること、場所により耕作物の関係で連続的に土層堆積が確認できなかったこと等の事情で古墳範囲の確定は不確定要素が残った状況であった。そのような状況下で、土地開発公社所有地の史跡地への追加指定及び公有地化が進められる状況が開けたため、市教育委員会が調査主体となり、文化庁・県教育委員会と事前協議並びに調整を経た後、確認調査を実施することになった。

立地 八幡山古墳は市街地より南東

へ約4kmの前橋台地東縁部を南流す広瀬川右岸の自然堤防上に位置する。この自然堤防は帶状に南東方向に連続しており、古墳群が形成されている。

調査の成果 今回の調査は周囲部分の範囲確認を主目的として実施し、周囲の立ち上がり推定範囲をを狙って東西南北方向に6本の確認トレントを設定した。その結果、すべてのトレントでAs-C及びHr-FAを確認した。1号・4号・5号トレントは大半が搅乱で土層が破壊されている状況の中、2号トレントではトレント西端で、3号トレントではトレント北端でそれぞれ基盤砂層が上昇傾向をみせ、周囲の立ち上がりが近いことを想定させた。前方部南側に設定した6号トレントではトレント南端部で周囲の立ち上がり傾向こそみせてはいないが、Hr-FAの堆積が中断する部分が見受けられ、不明瞭ではあるが周囲の立ち上がりの可能性が考えられた。今回の調査で不明確な要素については、今後更に広範な調査に委ねる必要がある。

## 10 市内遺跡発掘調査



文殊山古墳

事業名 埋蔵文化財発掘調査事業  
(市内遺跡発掘調査事業)

所在地 前橋市内  
調査期間 平成14年4月1日  
～平成15年3月31日  
担当者 高山 刚・小峰 篤  
調査面積 1,577 m<sup>2</sup>

調査の概要 平成14年度は38件の確認調査を実施した。そのうち遺構を確認できたのは1箇所であった。

調査の成果 山王町で実施した試掘調査は、県内でも有数の古墳群である朝倉広瀬古墳群の南端に位置する文殊山古墳で行われた。今回の調査の目的は墓地造成の前に試掘調査を実施し、墳丘の状態を確認するであった。

確認トレントは墳丘南面平坦部の既に崩落している部分を利用し、それをトレントの東側の壁として崩落部分に沿うように設定した。ここではトレントの東側断面で2段に地区別されている墳丘の傾斜が把握でき、葺石も確認した。石は径が15～25cmのものが多く検出された。石の最下段で45×35cmほどの根石と思わ

れる石も検出した。1号トレントの西側（墳丘南西隅）に設定した2号トレントは、かなり深い部分までゴミ穴が掘られており、旧地形の確認はできなかった。階段の脇に設定した3号トレントでは、現地表下50cmまでは搅乱が著しかったが、その下部で旧地表・盛土を確認した。3号トレントからは石田川式土器片を数点検出した。古墳の削平されている平坦部は後世の搅乱により古墳の構築面が完全に破壊されていた。

## 5 遺跡台帳整備事業

### (1) 遺跡台帳整備

年間を通じ、前橋市内において実施された埋蔵文化財発掘調査や各種確認調査等の成果資料を整備し、それを基に遺跡地資料の台帳化を進めている。この資料は、公共、民間各種開発事業の対応に使用している。

### (2) 資料整備

前橋市内で実施した発掘調査により得た遺物資料の整理を行った。特に、大室公園内の前二子古墳整備工事により出土した遺物の実測を行った。山王庵寺跡出土の遺物、特に保存処理が終了した塑像片については、整理・収納を徹底した。また、過去に実施した発掘調査の図面資料や写真資料等の活用が十分に図れるよう、整理を徹底した。

### (3) 小中学校資料活用支援

前橋市内の学校への遺物資料をはじめとした文化財資料貸出は、二之宮小学校、荒子小学校、天川小学校の3校に対し行った。

### (4) 普及パンフレットの作成

平成13年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を、市民向けに分かりやすくまとめたパンフレット「前橋の遺跡 平成13年度版」を作成し、市内小中学校や地区公民館、市役所1階市民ロビーなどに配布、文化財に対する啓発を進めた。平成13年度版は、荻窪町・五代町・総社町・元総社町などで実施された発掘調査の成果をまとめた。中でも五代町では縄文時代の遺物が数多く見つかり目を引いた。



発掘調査の成果をまとめたパンフレット

### (5) 文化財保護課玄関ロビーでの公開・展示

文化財保護課の玄関ロビーにおいて、平成13年度発掘調査で得た遺物資料を中心に、展示を行った。縄文時代から平安時代にかけての遺物で種類もバラエティに富んだものとなった。この他に、写真パネル等もあわせて展示し、資料の活用を図った。また、玄関正面の壁に前橋の地図パネルを作成して平成13年度の発掘調査地を点で示した。



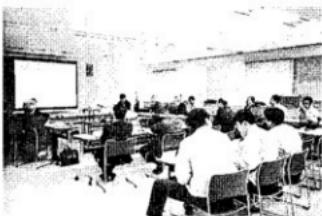
公開・展示の様子

### (6) 山王庵寺跡出土遺物保存処理

平成12年度から平成14年度までの3箇年で国・県補助金による保存処理事業が採択となり、最終年度にあたる平成14年度も塑像片を中心として52点の遺物保存処理を元興寺文化財研究所に委託した。なお、3箇年にわたり保存処理を実施した遺物(約300点)については、現在、総合教育プラザの収蔵庫に保管している。

### (7) 山王庵寺等調査委員会

平成12年度に山王庵寺等(山王庵寺と密接な関連を持つ周辺の遺跡)を調査し、保全と整備に万全を期するため山王庵寺等調査委員会が発足した。委員会は外部専門員6名のほか幹事6名、指導2名、顧問1名で構成されている。事務局は文化財保護課に置いている。本年度の委員会は、平成14年12月12日に開催され、午前中、蒼海地区土地区画整理事業に伴う発掘調査現場や山王庵寺周辺の現地視察を行い、午後は、総社・元総社地区的古代遺跡整備に関する基本的な考え方について協議を行った。



委員会の様子

## 6 大室公園史跡整備事業

### (1) 大室公園史跡整備委員会

大室公園史跡整備事業の推進にあたり、学識経験者及び関係職員で組織された、大室公園史跡整備委員会（平成元年度発足）において、整備計画及び整備内容の検討を十分に行なながら事業を実施している。

また、事業を①国指定史跡大室4古墳（前・中・後・小二子古墳）の保存整備、②赤城型民家と古代住居の整備、③大室古墳資料館の建設の3つの事業に大別し、その上で、より専門的・実務的に事業を担当する専門部会（古墳整備部会、民家変遷部会、資料館部会）を組織し、部会開催及び連絡調整を図りながら具体的に事業内容の検討にあたってきた。

#### ○平成14年度大室公園史跡整備委員会の経緯

平14.5.1…文化庁への平成14年度事業計画説明  
平15.2.12…大室公園史跡整備委員会第12回部会長會議開催

2.17…文化庁への平成15年度以降の事業内容説明

国立歴史民俗博物館教授白石太一郎氏への平成15年度以降の事業内容説明

2.20…平成14年度大室公園史跡整備委員会開催（通算17回目）



史跡整備委員会現地視察の様子

### (2) 古墳整備部会

昨年度で、前二子古墳石室周辺を除く史跡大室4古墳の整備が完了し公開が始まった。しかし、前二子古墳の石室の傷みが激しいことと、玄室西側に達している探査坑の修復が必要なことから、今年度から国庫補助事業として3ヶ年計画の「史

跡前二子古墳記念物保存修理事業」が始まった。

初年度の今年は、石室保存修理に万全を期すために、まず、墳丘表層の発掘調査及び諸調査を実施し、解体調査・整備に向けての基礎資料を収集した。その資料をもとに、今年度から3ヶ年の整備の実施設計を作成した。

そして、実施設計に基づいて石室保存修理工事を実施した。工事は、石室保護のための支保工設置した後に、来年度実施予定の石室羨道部解体修理に向けての3本のトレンチ調査と墳丘部に存在する明治期に掘られた探査坑修復埋め戻しと墳丘表層脆弱層の修復を行った。

#### ○前二子古墳調査概要

##### 〔目視調査〕

石室石積みの石室内からの目視調査・計測を行った

##### 〔表層発掘調査〕

掘削調査部分の表層調査を行い、上段部の葺石を確認した

##### 〔墳丘土地質調査〕

東側探査坑の有無の確認と地質調査を行い、東側に探査がないことと脆弱層があることを確認した

##### 〔石室内三次元計測〕

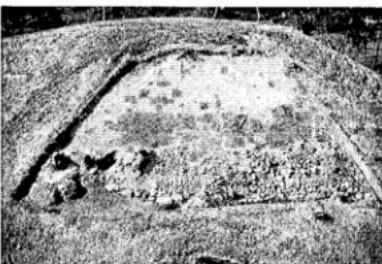
東京文化財研究所と東京大学との連携で石室内を三次元のデータで記録した

##### 〔玄室床石不陸直し〕

凸凹となっていた床石の据え直しを行った

##### 〔石材保存樹脂選定試験〕

石材強化とベンガラ保護のための試験を行った



前二子古墳表層調査状況

## ○前二子古墳工事概要

〔仮設・排水施設設置  
〔石室内支保工〕

〔トレンチ調査〕

周囲内に排水施設設置  
石室保護のための支保工設置

石室構造解明のため、  
玄室部1と羨道部2の  
計3箇所のトレンチ調査

〔探査坑修理〕

トンネル状に残る探査坑と崩された裏込を調査結果に基づいて修復  
地質調査で判明した墳丘脆弱層の修復

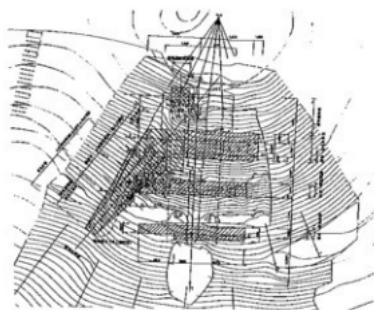
〔脆弱層修理〕



前二子古墳実施設計図



玄室不陸直し完了状況



平成14年度実施設計図



玄室西側の石室被覆状況

## ○平成14年度古墳整備部会の経緯

- 平14. 5. 16 … 第1回部会開催 拡大部会
- 平14. 8. 20 … 削範囲表層調査・玄室内床石  
～9. 25 不陸直し
- 平14. 8. 30 … 第2回部会開催 調査部門
- 平14. 12. 2 … 保存修理工事開始
- 平15. 1. 10 … 第3回部会開催 調査部門
- 平15. 1. 31 … 第4回部会開催 調査部門
- 平15. 2. 4 … 第5回部会開催
- 平15. 3. 14 … 保存修理工事完了

### (3) 資料館部会

大室古墳資料館（仮称）建設に向けて、用地を民家園北東に取得した。

また、今までの発掘調査（4古墳範囲確認調査・内堀遺跡群）等で得られた膨大な出土遺物資料の未整理分について、将来、資料館への展示・収蔵を目的に整理作業を継続して行った。

## ○遺跡全体模型周辺園路整備・全体模型への五料沼表示

平成13年度に設置した遺跡全体模型への園路として、後二子古墳から模型を経由し中二子古墳へぬける園路の整備を行った。

また、模型内の五料沼表示を追加し、見学者に理解しやすくした。

## あとがき

平成14年度の文化財保護行政として、「豊かな歴史的風土に根ざす本市文化財について、将来へ引き継ぐべき市民共有の財産として、その保護・活用をめざして諸事業を実施し、質の高い豊かな文化環境づくりに務める」の基本方針をもとに、文化財の調査・整備・保存・活用等様々な事業を進めてまいりました。

特に本年度は、新規事業として大室古代生活体験学習の実施や八幡山古墳範囲確認調査の実施、山王庵寺等調査委員会での「総社・元総社地区の古代遺跡整備に関する基本的な考え方」の策定、大室公園史跡整備事業での資料館用地の確保等大きな成果を挙げることができました。

本報告書は、そうした事業の概要をまとめたものです。本報告書が前橋市民の文化向上に役立つことを願ってやみません。

文化財保護課長 高橋 正男

### 平成14年度

前橋市文化財調査委員  
阿久津 宗二  
梅澤 重昭  
近藤 義雄  
松島 荘治  
安盛 博

### 平成14年度

文化財保護課職員	高橋 正男
文化財保護課長	高橋 正男
○文化財保護係	
文化財保護課長補佐	伊藤 茂男
主査	丸山 正家
"	木暮 良久
"	横山 浩之
主任	中嶋 茂樹
"	高橋 亨
"	小嶋 尚
"	小暮 啓介
○埋蔵文化財係	
埋蔵文化財係長	真塩 欣一
主査	渡邊 三男
主任	鈴木 雅浩
"	平野 岳志
"	齊木 一敏
"	飯田 祐二
"	高橋 一彦
"	近藤 雅順
"	須藤 健夫
主事	高山 利剛
"	小峰 篤
"	近藤 薫
"	倉品 敦子
文化財整備指導員(嘱託)	井上 唯雄
"	栗原 和彦
嘱託員	高坂 麻子
"	小林 和美
"	横澤 真一

---

### 平成14年度文化財調査報告書

平成15年12月発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課  
前橋市三保町2-10-2

---

